

NEWSLETTER

No.7

2002年5月15日

会長 小泉保 事務局 〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16番1号 関西外国語大学 澤田治美
研究室内 TEL 072-805-2801 (代表) FAX 072-805-2866 E-mail:tanaka@kansai.ac.jp (田中
廣明宛)

URL: <http://www2.justnet.ne.jp/~hiro-tanaka/index.htm>

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

★会員の皆様、お変わりありませんか。日本語用論学会Newsletter第7号をお届けします。さる3月25日に、第15回運営委員会が開かれました。この号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。

★第4回大会成功のうちに終了

日本語用論学会第4回大会は2001年12月1日(土)桃山学院大学で開催されました。参加者は180人にのぼり、語用論に対する関心の高さをうかがわせました。会場をお世話いただいた桃山学院大学の林宅男先生をはじめとする諸先生方、司会の先生方、ならびに院生の皆様に心から感謝いたします。

10時30分から12時まで4室にわかれて計14件のワークショップが行われました。各部屋では、和やかなうちにも活発な議論が行われました。思わぬほどの盛況でした。

12時40分からハイビジョンシアターで第4回総会が開かれました。小泉会長の挨拶に続いて、事務局報告、編集委員会報告、会計報告がなされました。

1時から3時30分までA室～D室に別れ、各会場3～4件、計14件の研究発表が行われました。どの会場も活発な質疑応答

がなされました。

3時45分から6時過ぎまで、「「関連性理論との対話」—関連性理論は語用論の新しいモデルになりうるか?」(司会:西山佑司、講師:今井邦彦、久保進、中村芳久)と題して、シンポジウムが開催されました。特に、関連性理論への関心の高さを思わせ、熱気に満ちあふれた充実したシンポジウムとなりました。シンポジウムの内容は今年の『語用論研究』第4号に掲載の予定です。

大会終了後、懇親会が開かれました。終始笑い声の絶えないなごやかな会でした。次回第5回大会(2002年12月7日(土))は、関西外国語大学で再会することを約して散会しました。

★第4回大会総括

1. 参加者	180名
現会員	109名
新入会員	40名
当日会員	31名
2. 懇親会参加者	52名
3. 第4回大会運営費内訳	
人件費	112,000円
謝礼	20,000円
交通費	30,000円

会議費	45,510 円
湯茶費	18,863 円
懇親会費	224,389 円
合計	450,762 円

合計	1,164,823 円
次年度繰越金	1,786,803 円

★2001 年度の会計報告

本学会の会計年度は毎年 3 月末日となっています。昨年度の会計報告は以下の通りです。会計監査委員より監査を受けました。12 月の大会の時に承認していただきます。

2001 年度（平成 13 年度）会計報告

(収入)	
前年度繰越金	849,477 円
会費 (273 口)	1,092,000 円
学会当日会員会費	76,000 円
懇親会費	159,000 円
Program & Abstracts	
売り上げ	219,000 円
『語用論研究』バック	
ナンバー売り上げ	55,500 円
学会補助	500,000 円
普通預金利子	649 円
合計	2,951,626 円

(支出)	
印刷費	
Program & Abstracts	160,630 円
『語用論研究』第 3 号	297,780 円
学会封筒・プログラム	
印刷代	61,950 円
郵送費	126,930 円
事務局諸費	20,428 円
人件費 (シンポジウム講師・	
学生アルバイト)	13,200 円
消耗品費	15,853 円
学会当日諸費用	64,863 円
講師旅費	60,000 円
懇親会費	224,389 円

★ 2001 年度予算

(大会が 12 月のため、毎年その年度の予算を大会時に決めております。以下は第 4 回大会で承認されました。)

(収入)	
会費 (4,000 円×190 口)	760,000 円
当日会費	80,000 円
Program & Abstracts 売り上げ	
	150,000 円
バックナンバー売り上げ	20,000 円
合計	1,010,000 円

(支出)	
印刷費	
Program & Abstracts	200,000 円
語用論研究	180,000 円
郵送費	80,000 円
事務局諸経費	50,000 円
学会当日諸経費 (文房具、アルバイト代、	
会場費、雑費、シンポジウム講師旅費、懇	
親会費補助など)	300,000 円
合計	810,000 円

★ 次回大会開催校・研究発表募集

今年度の第 5 回大会は 2002 年 12 月 7 日 (土) に、関西外国語大学 (〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16 番 1 号

TEL 072-805-2801 Fax 072-805-2866)

(<http://www.kansaiidai.ac.jp>) で開催される予定です。関西外国語大学はこの 4 月から新キャンパスへ移転しました (旧と同じ大阪府枚方市内)。緑豊かな広いキャンパス

です。皆さん、奮ってご参加・ご応募下さい。

★「研究発表」・「ワークショップ発表」募集

発表要旨：①「研究発表」の場合、A4 の用紙を用いて、余白を十分とり 1 行目にタイトルを明記し、25 字×30 行で 3 枚以内にまとめて 4 部（コピーで可）を提出する。ただし、参考文献表は枚数に含めない（注は付けないこと）。名前は別紙に書くこと。タイトル、名前、所属・職名、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールのアドレスを明記したものを添付する。名前には必ずふりがなを付ける。

②「ワークショップ発表」の場合、A4 の用紙で、25 字×30 行で 1 枚以内にまとめて 3 部提出する。それ以外の点は①の「研究発表」と同じ。なお、ワークショップの場合、全体のテーマを決めてグループでの発表も歓迎します。

発表時間：①「研究発表」の場合は 1 人 25 分以内（別に質疑応答 10 分）。②「ワークショップ発表」の場合は 1 人 15 分以内（別に質疑応答 5 分）。

応募締切：①「研究発表」の場合は 2002 年 8 月 31 日（土）必着とする（選考結果は 1 ヶ月以内に通知します）。②「ワークショップ発表」の場合は 2002 年 9 月 30 日（月）必着とする（選考結果は 10 月中に通知します）（ワークショップの締め切りが昨年と違っておりますのでご注意ください。なお、前日に速達で投函されても地域によっては届かない場合もありますので余裕を持って応募されるようお願いいたします。締め切り厳

守、また他学会との二重投稿はお控え下さるようお願いいたします）。

宛先（問い合わせ）

〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1 関西外国語大学 澤田治美研究室 内 日本語用論学会事務局 TEL072-805-2801（代）FAX072-805-2866。（E-mail: tanaka@kansai.ac.jp（田中廣明宛）ただし、メールでの応募はご遠慮下さい）①の場合は「研究発表応募」と、②の場合は「ワークショップ発表応募」と朱筆のこと。

Program & Abstracts の執筆について

研究発表、ワークショップ発表決定者の皆さんについては Program & Abstracts（ハンドアウト集）のハンドアウト執筆をお願いします。研究発表は 8 枚以内、ワークショップは 4 枚以内です。締め切りは 10 月 31 日（締め切り厳守）です。詳しくは選考結果通知の際にご連絡を差し上げます。

★『語用論研究』第 4 号投稿募集

現在、本学会の学会誌『語用論研究』第 4 号への投稿を募集しています。投稿規定は『語用論研究』第 3 号と学会のホームページに記載されているとおりです。多数のご応募をお待ちしています。以下の要領でご応募下さい。

締め切りは 2002 年 8 月 31 日（土）（研究発表の締め切りと同じ）。32 行×38 文字で A4 横書き 15 枚以内。上・下 30mm、左・右 25mm の余白をとる。原稿の 1 ページ目はタイトルのあとに 1 行アケで氏名の行（ただし、氏名は別紙に書く。投稿の際には書かない）、そのあと 2 行アケで本文を続ける。例文の前後、各節の前は 1 行あける。

ページ番号は裏面に鉛筆で記す。注は参考文献の前にまとめて付ける。参考文献の書式は、投稿規定を参照のこと。原稿は4部提出（1部は鮮明なもの）。ただし、**投稿時には原稿に名前は書かず**、別紙に書く。別紙に、氏名（ふりがな）、住所、所属、職名、連絡先電話番号、Fax 番号、e-mail アドレスを記入する。

第4号から掲載決定者には、フロッピーディスクを提出していただくことになりました（応募の際は提出しなくて結構です）。編集委員会では、論文の活字をそろえるため、事務局（田中）で版下を作成し、写真印刷に回すことになりました。詳しくは、掲載決定者に後ほどお知らせいたします。

送付先：〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1 関西外国語大学 澤田治美研究室 室内 日本語用論学会事務局 TEL 072-805-2801（代）FAX 072-805-2866。「投稿論文在中」と朱筆のこと。採用決定は9月中。刊行は12月7日の学会で。

研究発表、ワークショップの応募、『語用論研究』の投稿とも、会員に限るという規定がありますので、**会員でない方は応募と同時にご入会下さい**。学会のホームページを参照してください。また、**他学会、他誌との二重投稿はご遠慮下さい**。なお、上記の案内は『月刊言語』（7月号）『英語青年』（7月号）『日本語学』（7月号）に掲載の予定です。

★訃報

2002年2月25日に運営委員の神尾昭雄先生（獨協大学）が逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

★学会費の払い込み

このニューズレターとともに2002年度会費(4,000円)の振替用紙が同封されています。大会当日は納入受付が大変混雑しますので、なるべくこの用紙でお早めに振り込み下さいませようお願いいたします。振替用紙が、2枚入っている方は昨年度分の会費が未納の方ですので、学会の会計をご理解の上併せてお払い下さい。2年連続して会費を未納されますと、会員の資格が失効します。なお、住所・所属に変更や移動のある方は、必ず振替用紙の通信欄にお書き下さい（あるいは、田中廣明宛にメールでも結構です）。なお、行き違いがある場合はご容赦下さるようお願いいたします。

★第5回大会のシンポジウム

第5回大会のシンポジウムは、「語用論からの提言」というテーマで、司会を高原脩先生（関西外国語大学）、講師に小泉保先生（関西外国語大学）、児玉徳美先生（立命館大学）、澤田治美先生（関西外国語大学）、またコメンテーターに東森勲先生（龍谷大学）をお願いすることになりました。ラネカーたちの認知言語学、ジャッケンドフの意味論、レビンソンをはじめとする新グライス学派、関連性理論による助動詞研究のパパフラゴウに対して、語用論の立場から大胆な提言を行うという試みです。皆さん、ふるってご参加下さい。

★学会のホームページ開設

昨年より、日本語用論学会では、以下のURLで公式ホームページを開設しております。投稿規定、入会の方法など詳しくは以下をご覧ください。

<http://www2.justnet.ne.jp/~hiro->

tanaka/index.htm

★事務局の住所変更について

2002年4月から関西外国語大学が新キャンパス（中宮キャンパス）に移転のため、事務局の住所が以下のように変わりました。学会への問い合わせ、研究発表などの投稿の住所はすべて新しくなります。場所は同じ大阪府枚方市内で、以前より便利になりました。今年の大会も関西外大で行われますので、是非お立ち寄り下さい。

新住所：

〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1
関西外国語大学 澤田治美研究室内 日
本語用論学会事務局 TEL072-805-2801
(代) FAX 072-805-2866

なお、それに伴って、田中廣明宛の E-mail address も以下のように変更になりました（ドメインネームの変更）。旧の E-mail address でも6月までは届きますが、それ以降は戻ってきませんので、ご注意下さい。

新アドレス：tanaka@kansai.ac.jp

★ 語用論関係の新刊書紹介

山本英一 (2002) 『「順序づけ」と「なぞり」の意味論・語用論』（関西大学出版部）
長谷川存古 (2002) 『語用論と英語の進行形』（関西大学出版部）
宗宮喜代子 (2002) 『ルイス・キャロルの意味論』（大修館書店）
濱本秀樹 (2001) 『多文化世界の意味論』（松白社）

★Forum

タクシーでは運転手の横座席に
高司正夫
この国（オーストラリア）では、平等の

精神が社会の隅々まで浸透しているように見える。たとえば、大学の教授と学生は対等の関係にあります（とはいえ、学生の教授に対する尊敬の念は別である）。私がいる大学の世界的に著名なアナ・ヴィエツピカ教授を学生たちはアナとファーストネームで呼んでいる。「呼びかけ」は「指示」に関して難しい問題を孕んでいる。この平等の精神はタクシーに乗るときもはたらく。お客は運転手の横座席に座るのが慣習で、後部席に座ると「尊大な態度」と思われるらしい。このような平等精神に則った相互行為（言語行為/行動行為）ができないと、社会集団から（目にみえない形で）無視されるかもしれないという厳しい現実もある。

（オーストラリア国立大学訪問特別研究員）

（事務局 澤田治美・田中廣明記）

メールでの連絡は、
tanaka@kansai.ac.jp（田中廣明宛）
へ。